

～伊賀・山城南定住自立圏構想～

定住自立圏構想とは、地方における大幅な人口減少や急速な少子化・高齢化の進行が見込まれる中、地方圏において安心して暮らせる地域を各地に形成し、地方圏から三大都市圏への人口流出を食い止めるとともに、地方圏への人の流れを創出するため、一定の要件を満たす「中心市」と「近隣市町村」が、それぞれの魅力を活用して、相互に役割を分担し、連携・協力することにより、圏域全体に必要な生活機能を確保し、地方圏への人口定住を促進する取組みです。

三重県伊賀市・京都府相楽郡笠置町・京都府相楽郡南山城村は、木津川の流れを同じくし、これまでも県境を越えた生活圏を形成してきました。今後、定住自立圏構想を推進し、連携を強化することで、それぞれの地域が持つ地域資源を活用しながら、人口流出を食い止めるダムとなる施策を展開します。

■ 各市町村の概要

【三重県伊賀市】

伊賀市は三重県の北西部に位置し、四方を山々に囲まれた盆地で豊かな自然に恵まれています。京都・奈良や伊勢を結ぶ大和街道・伊賀街道・初瀬街道を有し、古来より都に隣接する地域性と交通の要所として、江戸時代には藤堂家の城下町や伊勢神宮への参宮者の宿場町として栄えてきました。京・大和文化の影響を強く受けながらも独自の文化を醸成し、伊賀流忍者や俳聖松尾芭蕉のふるさととして歴史文化の息づく町としても発展しています。

【京都府相楽郡笠置町】

笠置町は京都府の最南端に位置し、府内で一番小さな町です。町のシンボルでもある笠置山は古くから信仰の対象とされ、山頂の笠置寺には日本一といわれる弥勒大磨崖仏があります。また、後醍醐天皇の行在所としても知られ、當時をしのぶ史跡も数多く残っています。

四季を通じて豊かな自然を楽しめ、日本の桜名所百選に選定されている約3,000本の桜が春を告げ、秋には笠置山が錦に染まります。笠置町は歴史と美しい自然が調和する町です。

【京都府相楽郡南山城村】

南山城村は、京都府の南東端に位置し、南は奈良県、北は滋賀県、東は三重県に隣接している、京都府で唯一の“村”です。中央には雄大な木津川の流れと、高山ダム湖と夢絃峡の清流が生み出す幽玄美、点在する集落には緑豊かな茶畑

が広がり、良質な宇治茶の主産地として知られています。北側には夏場でも清涼な童仙房高原など、豊かな自然と里山の風景を残した元気な村です。

	面積 (km ²)	人口 (人)	平成 28 年度当初予算	
			全体(千円)	一般会計(千円)
三重県伊賀市	558.23	94,274	81,122,036	45,550,136
京都府笠置町	23.52	1,446	1,900,372	1,264,700
京都府南山城村	64.11	2,911	4,554,324	3,252,590
3市町村	645.86	98,631	87,576,732	50,067,426

(人口・世帯数:各市町村住民基本台帳平成 28 年 3 月末現在)

	伊賀市	笠置町	南山城村
花	ささゆり	そめいよしの	山桜
木	あかまつ	みやまつつじ	さつき
市章 町章 村章	 <p>「伊」の文字をモチーフにし、山々に囲まれた自然豊かな市のイメージと未来へ向かい躍動する市民の姿を表現しています。緑色は市の自然、青色は過去から未来へと続く歴史を表し、それらとともに人が輝く、地域が輝く、住み良さが実感できる自立と共生のまち、伊賀市をシンボライズしています。</p>	 <p>中央の  形は笠置の「カ」を、また周囲の  と  の部分を組み合わせて「サ」を表現しました。すなわち「カサ」であります。町の円内から上に左右に向かって飛躍する町民の姿です。</p>	 <p>南山城村の「み」を図案化し、そのうちに円満、抱合、発展を、中央のまじわりは団結を表現しています。</p>

伊賀・山城南定住自立圏 圏域図

